

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
中央工学校OSAKA		昭和61年3月31日		中村 聖吾		〒561-0872 大阪府豊中市寺内一丁目1-43 (電話) 06-6866-0800				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人 中央工学校		昭和39年3月27日		堀口 一秀		〒114-8543 東京都北区王子一丁目26-17 (電話) 03-3906-1211				
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	インテリアデザイン科				平成7年文部科学省認定	-			
学科の目的	工業分野に従事しようとする者に、企業との連携の上で実務性の高い専門知識及び技術・技能を修得させるとともに志操堅実な技術者を育成する事を目的とする。									
認定年月日	平成26年3月31日									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技			
2	昼間	1,748時間	842時間	1,678時間			時間			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数				
80人	41人	5人		2人	24人	26人				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、実習、出席学習態度の総合的評価				
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月5日 ■春季:4月1日～4月10日				卒業・進級条件	履修すべき全科目に合格 卒業課題の提出・合格 履修期間の出席率が80%以上 所定の費用を全納している				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 補習授業等				課外活動	■課外活動の種類 ・軽井沢研修、スポーツ大会等の学生実行委員会 ・Digitalなんでも倶楽部等のクラブ・サークル活動 ■サークル活動: 有				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 建築・インテリア業界 ■就職指導内容 進路指導室による就職指導、就業支援システムキャリアマップによる求人求職情報の公開、キャリアガイダンス・企業業界研究セミナーの実施、インターンシップ制度の導入・実施 ■卒業生数 16 人 ■就職希望者数 16 人 ■就職者数 16 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 % ■その他 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)				
						資格・検定名		種	受験者数	合格者数
						色彩検定2級		③	22人	10人
						インテリア設計士		③	11人	9人
						2級リビングスタイリスト		③	5人	4人
						パース検定2級		③	26人	14人
						※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和2年4月1日時点において、在学者44名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者43名(令和2年10月転科者、令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任面談による指導、入学前の進路確認、保護者懇談会				■中退率 9%					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 ・中央工学校OSAKA特待生制度:年間授業料相当額の1/2もしくは1/4の免除 ・学校法人中央工学校奨学金制度:年額50万円以内(無利子)の学資金貸与 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)									

当該学科の ホームページ URL	https://www.chuoko-osaka.ac.jp/
------------------------	---

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門学校の目的は「職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教育の向上を図る」ことにある。本校は、建築系専門学校として100年余の歴史と伝統のある中央工学校のグループ校で、工業技術教育を行う専門学校として技術者の育成を行っているが、広く社会の要請に応じた組織的な教育を行うためには、企業等との連携は欠かせない。専門課程の教育内容に適した企業との連携により、実践的な職業教育水準の維持向上に努める。特に教科構成や実習・演習の実施、教員研修について、企業等の意見を反映させるように取り組む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記基本方針に則り、校長の下に教育課程編成委員会を置き、全学科の教科構成について、実務における重要事項が該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。
指摘を受けた内容について、各学科において詳細検討を行い、改善項目を校長に報告する。校長は教育課程編成委員会委員にその旨を伝達する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
小松原 学	富士教育訓練センター校長	令和2年4月1日～令和4年3月31日	①
金沢ちかこ	公益社団法人日本インテリアデザイナー協会 西日本エリア副エリア長	令和2年4月1日～令和4年3月31日	①
小坂田昌広	株式会社松本組取締役兼副社長執行役員	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
田中 由之	株式会社PPI計画・設計研究所取締役設計室長	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
岩尾 美穂	オフィスいどり代表	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

本校は二期制のため、前・後期の節目となる時期を定めて年2回教育課程編成委員会の開催を原則とする。

(開催日時(実績))

第1回 令和2年10月23日 15:00～17:00

第2回 令和3年2月19日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会により出された意見は、翌年度の教科構成に反映をさせる。

令和2年度については、令和2年10月および令和3年2月開催の同委員会の結果を鑑みて、教科構成の必要な修正を行うものとする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等は専門学校教育の根幹をなす重要なものである。よって、常に最新の技術を指導する必要があるため、学校と企業等が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育となるように努める。
 連携を行う企業とは、雇用契約書を取り交わし、契約の趣旨に則り実践的な職業教育を行うものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

上記基本方針に則り、次の項目について連携を行う。

- ①カリキュラムの作成
- ②講義及び実習の実施
- ③講義・実習教材の作成
- ④成績評価及び進級審議等に関する助言
- ⑤その他の実習運営上に必要となる事項

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
建築・インテリアデザイン演習	建築・インテリアの職業に就くために必要な「空間」づくりの基本を学ぶことを目的とする。 課題を通して、以下の力を身に付けることを目標とする。 (1)色を与えるイメージや基本的な色の構成を理解する (2)空間創造のコンセプトワークによって、イメージを具体的な空間に落とし込む能力を養う (3)模型を制作する基本的な技術と表現力を身につける。	岡建築デザイン事務所 感響創造クーハウス
レンダリング演習 I	デッサンや着色、透視図等の基本的な表現技法を学ぶことで、プレゼンテーションで使える様々な表現方法を習得する。立体・空間の表現技術や図法・絵画技術を習得する。	岡建築デザイン事務所 ヒロデザイン事務所
CAD演習	色彩・レイアウトなどグラフィックデザインの基礎を学び、建築・インテリアのプレゼンテーションにおける図面・ボード・ドキュメント等のデジタルによる表現方法を習得する。	ナカヒラアーキテクト 楽空間設計一級建築士事務所
ベーシックデザイン演習	さまざまな単位空間をコンセプトワークによって創造させることにより、イメージを空間化する能力やプレゼンテーション能力を養う。イメージを構築するプロセスを3回経験することによって、コンセプトの重要性を理解する。	岡建築デザイン事務所 感響創造クーハウス
ライティングデザイン演習	照明器具及び照明計画の基礎事項を理解させるとともに、住空間・商業空間に効果的に活用できる方法を身に付けさせる。	カラマライティングデザインスタジオ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校の教育職にあるものは、各自が担当する授業の分野に応じ、企業等と連携の上で高度化、多様化する理論及び新技術等について研修に努めなければならない。

校長に承認を得た者は企業等と連携の上で、校外研修(長期研修・短期研修)及び特別研修を行うことができる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「令和2年度職員研修発表会」

※例年実施しているが、コロナウイルスの影響に伴い未実施

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和2年度新任職員研修会」
 期間: 令和2年7月29日(水)～30日(木)

対象: 唐木 恵美、吉田 知恵、栗本 真里、清本 真沙実、福原 奈美

研修名「令和2年度新任教員研修会」
 期間: 令和2年8月3日(月)～12日(水)

対象: 唐木 恵美

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「令和3年度職員研修発表会」
 期間: 令和3年8月27日(金)

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和3年度新任教員研修会」
 期間: 令和3年7月30日(金)～8月6日(金)

対象: 岡野 和生

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、中央工学校運営指針に則り自己評価を実施する。

実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。

また、卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①教育理念・目的・育成人材像は定められているか ②学校における職業教育の特色は何か ③社会のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想は、学生・保護者等に周知されているか ⑤教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想は、対応業界のニーズに対応しているか
(2)学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか ②学則・細則・内規等は整備されているか ③コンプライアンス体制が整備されているか ④教育活動に対する情報公開が適切になされているか ⑤情報システム化等により業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	①各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか ②カリキュラムや教育方法の工夫・開発・見直しが行われているか ③授業評価の実施体制はあるか ④資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑤成績評価の基準は明確になっているか ⑥教員資質向上のための研修が行われているか

(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③退学率の低減が図られているか ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤保護者と適切に連携しているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ①施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか ②学内外の実習施設・インターンシップ等について充分整備されているか ③防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ①学生募集活動は適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③学納金は妥当なものになっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか ③財務について会計監査が適正に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ①留学生の受入れについて戦略を持って行っているか ②受入れ・在籍管理等について適切な手続きがとられているか ③留学生の学習支援について、適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者からの指摘を受け、令和元年度中央工学校OSAKA学校教育計画にこれらの是正事項を示し、自己評価において、それらの是正状況を確認する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
小松原 学	富士教育訓練センター校長	令和2年4月1日～令和4年3月31日	①
金沢ちかこ	公益社団法人日本インテリアデザイナー協会 西日本エリア副エリア長	令和2年4月1日～令和4年3月31日	①
小坂田昌広	株式会社松本組取締役兼副社長執行役員	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
田中 由之	株式会社PPI計画・設計研究所取締役設計室 長	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③
岩尾 美穂	オフィスいんどり代表	令和2年4月1日～令和4年3月31日	③

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

ホームページ(URL:www.chuoko-osaka.ac.jp)に掲載・令和3年8月初旬

その他(教職員会議にて令和3年度教育基本方針を配布)・令和3年4月6日(火)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

URL:www.chuoko-osaka.ac.jp

ホームページ・教職員会議にて令和3年度教育基本方針を配布

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①建学の目的 ②基本的運営方針 ③重点管理指針
(2) 各学科等の教育	①具体的方策 ②各学科の重点管理項目
(3) 教職員	①教員資質の向上と新技術の修得 ・教員研修発表会 ・校外研修(企業等との連携)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①実技・実習を中心とした職業教育への取り組み ②特別活動による校外実習 ③企業等と連携した校内実習
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学生満足度の向上 ・学生アンケート ・学生による授業評価 ②資格取得支援 ③外部に対する情報公開

(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ大会、緑地祭を中心とした楽しい学校づくり ②担任を中心とした生活指導 ③進路指導 <ul style="list-style-type: none"> ・就職指導 ・進学指導 ・留学生進路指導
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項・パンフレット等にて公開しているが、企業等に対する特別な公開をしていない。
(8) 学校の財務	企業等に対する特別な公開をしていない。
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ①自己評価・公表 ②学校関係者評価・公表
(10) 国際連携の状況	特になし
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者との連携 ②専門学校との連携 ③教育機関との連携 ④防災対策の整備 ⑤個人情報の保護

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:www.chuoko-osaka.ac.jp

授業科目等の概要

(工業専門課程インテリアデザイン科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	カラーコーディネート	公益社団法人色彩検定協会（A・F・T）の色彩検定2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	1通	106		○			○			○	○
			○	カラーコーディネート	公益社団法人色彩検定協会（A・F・T）の色彩検定2級検定試験に合格できる能力を身に付けさせる。	2通	106		○			○			○	○
			○	ビジネス能力検定	ビジネス能力検定（B検）ジョブパス2級・3級に合格できる能力を身に付けさせる。	1通	106		○			○			○	○
			○	ビジネス能力検定	ビジネス能力検定（B検）ジョブパス2級・3級に合格できる能力を身に付けさせる。	2通	106		○			○			○	○
			○	環境社会	環境社会検定試験（eco検定）に合格できる能力を身に付けさせる。	1通	106		○			○			○	○
			○	環境社会	環境社会検定試験（eco検定）に合格できる能力を身に付けさせる。	2通	106		○			○			○	○

14	○		建築史 I	西洋建築（石の建築）と日本建築（木の建築）の歴史を全般的に学ぶことで、人間の暮らしと建築物、そして環境との関係性について知るきっかけとする。また、日本国内だけでなく世界の建築物を通して建築に対する見識を広げる。	1 前	36		○			○		○					
15	○		構造力学 I	構造物（建築物）がいかに建っているのか、力はどのように働くのか、力学的な考え方の基礎を理解する。建築物がなぜこのような形をしているのか、どのように計画していくかを理解するための一歩目とする。以下の理解・習得を目標とする。 （１）力の性質と表現方法を理解する （２）力を分解することができる （３）反力を、力のつり合いをもとに単一材と簡単なラーメン構造で求めることができる	1 前	36		○			○		○		○	○		
16	○		建築構造 I	木構造の基本的な組み方と部材を性質とともに理解し、「建築インテリア基礎製図演習」と連動して、図面を描いたり設計をする際の基礎知識を養う。二級建築士受験の上でも科目の1つとなっている分野であるので、受験を想定した問題にも取り組む。	1 前	36		○			○		○					
17	○		建築・インテリア基礎製図演習	木造における一般図や詳細図のトレースを通じて、製図技法や表現力を身に付ける。	1 前	144		○			○		○		○	○	○	
18	○		ITリテラシー	パソコンの起動、終了、保存、マウス・キーボード操作、基本用語、PC各部の名称などの基本を学び、MicrosoftOfficeの操作を習得する。また、インターネットを活用する上での安全な使い方や、分析して活用する能力を身に着ける。	1 前	36		○			○		○		○	○	○	
19	○	○	建築・インテリアデザイン演習	建築・インテリアの職業に就くために必要な「空間」づくりの基本を学ぶことを目的とする。 課題を通して、以下の力を身に着けることを目標とする。 （１）色が与えるイメージや基本的な色の構成を理解する （２）空間創造のコンセプトワークによって、イメージを具体的な空間に落とし込む能力を養う （３）模型を制作する基本的な技術と表現力を身につける。	1 前	72		○			○		○		○	○		

28	○		インテリア施工	各種仕上げ工事の基礎的な知識の習得と、見積りの演習を行い、コスト感覚を持った積算実務の基礎を習得する。	2前	36		○			○			○	○	
29	○		インテリアデザイン総論	横断的に既習内容を整理し、フォローアップとして関連する応用課題や研究を行う。また、習得したスキルを用いて、デザイン打ち合わせができる総合力を養う。	2後	68		○			○			○		
30		○	インテリアエレメント・建築材料Ⅱ	材料の特性を知り、建材としての一般的な使用時の注意事項などを理解する。さらに詳細及び、2級建築士に対応できる知識も身につけさせる。	2後	34		○			○			○	○	
31		○	プロジェクトデザイン論	インテリアを取り巻くビジネスについて様々な視点から観察、調査し、その仕組みを理解した上で、マーケティングから、企画・プロデュースのプロセスをシュミレーションすることにより、新しい視点と、発想力を育てる。さらに、将来は、ビジネスチャンスを自ら開拓し、商環境の発展に貢献できる感性を養う。	1後	34		○			○			○	○	
32	○		プレゼンテーション技術演習Ⅰ	プレゼンテーションの目的や法則（レイアウトや色彩等）を理解し、イメージを的確に伝達できる技術を養う	1後	34					○			○	○	
33	○		プレゼンテーション技術演習Ⅱ	インテリアデザインをプレゼンテーションにあたり、使用するツールを選択すること、それらを駆使して適切なアピールをするための過程を学ぶ。また、デザイン意図を魅力的に表現するために、論理的で計算されたプレゼンテーションができることを目標とする。	2後	34					○			○	○	
34	○		インテリア製図演習	図面を読み取り、空間情報の伝達手段としての製図技術を身につけることを目的として、考えながらトレースをする習慣を身に付けさせる。同時に、住空間、物販店、飲食店の一般図や詳細図の基本事項を、理解させ、表現能力を向上させる。	1後	68					○			○	○	○

35	○		インテリアスタイリング演習	住まいのインテリアコーディネーションのための技術・知識を養うために、住空間を構成する様々なエレメントと、住まい手のかかわりについて、人間工学、人体寸法、動作空間、空間の心理などを踏まえて的確にとらえる力をつける。 また、クライアントのライフスタイルの分析や、住宅やインテリア業界におけるマーケティングを含めたニーズの把握について学び、発想力を培う。そのために、カラーやフォルム、テクスチャを活用して、いかに空間に、クライアントの個性を落としこみ、調和の取れたインテリアを創造していくかを理解する。	1 後	68				○	○	○	○	○
36	○		デジタルプレゼンテーション演習	色彩・レイアウトなどグラフィックデザインの基礎を学び、建築・インテリアのプレゼンテーションにおける図面・ボード・ドキュメント等のデジタルによる表現方法を習得する。	1 後	34				○	○		○	○
37	○		ショップデザイン演習	商業空間の設計をとおして、学生各自の自由な発想と表現する力を養うとともに、個性を引き出し、コンセプトワークをとおして、商業空間デザインの表現力とプレゼンテーション効果を追及する態度を身に付けさせる。	1 後	68				○	○		○	○
38	○		CAD演習	色彩・レイアウトなどグラフィックデザインの基礎を学び、建築・インテリアのプレゼンテーションにおける図面・ボード・ドキュメント等のデジタルによる表現方法を習得する。	1 後	34				○	○		○	○
39	○		3次元CAD演習Ⅰ	VectorWorksを用いたCGの作成と、アドビ Photoshop Illustratorといった他のソフトと併用し、より表現力の高いプレゼンテーション資料制作の基礎力を養う。	2 前	72				○	○		○	○
40	○		3次元CAD演習Ⅱ	インテリアの可能性を理解し、その効果的な見せ方と3DCADの応用力をつける。インテリアを魅力的に表現する表現力を向上させ、空間全体のコーディネート の意図が伝わるように工夫すると同時に、インテリアデザインのコンセプトを掘り下げ、具体化する手法を習得させる。	2 後	34				○	○		○	○
41	○		ライティングデザイン演習	照明器具及び照明計画の基礎事項を理解させるとともに、住空間・商業空間に効果的に活用できる方法を身に付けさせる。	2 前	72				○	○		○	○

42	○			ファニチャーデザイン演習	一般的な家具を理解するとともに、インテリア製品に実態と現状を学習した上で、家具の設計に必要な基礎知識を習得させる。また、家具の設計における基本的な表現方法（3面図・詳細図）を学び、さらに人体系家具・収納系家具を設計することにより、発想豊かな表現力とプレゼンテーション技術を習得させる。	2 前	72			○		○			○	○
43	○			ユニバーサルデザイン演習	住宅リフォームにおける営業・設計・積算・施工管理などの一連業務の基礎知識を習得した上で、基礎技術を習得する。	2 後	68			○		○			○	○
44	○			インテリア製図技術Ⅰ	1年次に習得した基礎的製図技術を活用して、自ら計画した建物の建築図面の一般図一式を作成できる力を習得し、同時に計画力の強化を図る。	2 前	72			○		○			○	○
45		○		ベーシックデザイン演習	さまざまな単位空間をコンセプトワークによって創造させることにより、イメージを空間化する能力やプレゼンテーション能力を養う。イメージを構築するプロセスを3回経験することによって、コンセプトの重要性を理解する。	1 後	34			○		○			○	○
46		○		レンダリング演習Ⅱ	立体・空間の表現技術や図法・絵画技術を習得させる。簡単な室内パース、外観パースが確実に起こせる技術を習得し、パース検定2級を取得する力をつける。	1 後	34			○		○			○	○
47		○		プロジェクトデザイン演習	インテリアデザインビジネスにおける、論理的発想による企画・プランニング手法や立案方法を習得させ、一般コンサルティング業務を理解させる。	2 前	72			○		○		○	○	○
48		○		インテリア製図技術Ⅱ	インテリアに必要な家具や内観を描くための技術を定着させ、応用力を身に付けさせる。また、インテリアを魅力的に表現する力を向上させ、空間全体のコーディネート意図が伝わるように工夫することの重要性を理解させるとともに、インテリアデザインのコンセプトを掘り下げ、具体化する手法を習得させる。	2 後	68			○		○			○	○

49	○	卒業制作(インテリアスタイリングコース)	<p>建物の設計または、増改築等を行い、自分が設定したテーマに沿った空間を創造する。</p> <p>テーマに添って、主要室を中心に建築構造体・ファニチャー・ライティング・テキスタイル・オブジェ等で構成される調和のとれた空間を創造する。インテリアの構成要素を一つ一つ具体的に決定していく工程を経て、計算されたプレゼンテーションまでを完成させる。あるいは、ショップデザインについては、市場調査から経営、販促までのビジネスモデルデザインや価値観のデザイン、つまり新しい発想や着眼点から問題解決法を提案し、現実的かつ論理的なシステムデザイン企画設計を主とする作品を含む。こちらも、説得力のある、視覚的なプレゼンテーションまでを制作する。</p>	2 後	136				○		○			○	○	○
50	○	卒業制作(ショップデザインコース)	<p>建物の設計または、増改築等を行い、自分が設定したテーマに沿った空間を創造する。</p> <p>テーマに添って、主要室を中心に建築構造体・ファニチャー・ライティング・テキスタイル・オブジェ等で構成される調和のとれた空間を創造する。インテリアの構成要素を一つ一つ具体的に決定していく工程を経て、計算されたプレゼンテーションまでを完成させる。あるいは、ショップデザインについては、市場調査から経営、販促までのビジネスモデルデザインや価値観のデザイン、つまり新しい発想や着眼点から問題解決法を提案し、現実的かつ論理的なシステムデザイン企画設計を主とする作品を含む。こちらも、説得力のある、視覚的なプレゼンテーションまでを制作する。</p>	2 後	136				○		○			○	○	
51	○	卒業制作(家具・照明デザインコース)	<p>用途・素材・構造について調査、研究し、また工具・道具の使い方と機能を知り、テーマを各自で設定し、設計・企画を進める。まずプロダクトデザインのデザインワークの考え方を理解した上でオリジナルの発想やアイデアを取り入れた家具づくりを目指す。</p> <p>その家具を中心に建築・インテリア・ファニチャー・ライティング・テキスタイル・オブジェ等を、調和のとれた空間として創造しインテリアスタイルも提案する。</p>	2 後	136				○		○			○	○	
52	○	トータルコーディネート演習Ⅰ(インテリアスタイリングコース)	<p>前期は、自分がデザインしようとしているものに求められる一般的な機能や計画、イメージの作り方などを内装リノベーション、ディスプレイ、テーブルコーディネートを通して習得する。</p> <p>以上のウォーミングアップを経て、後期にはオリジナルデザインを構築し具現化できる力を養う。</p>	2 前	72				○		○			○	○	

53			○	トータルコーディネート演習Ⅱ(インテリアスタイリングコース)	住まいのあり方について、住まい手の個性やライフスタイルをインテリアデザインに反映させた提案ができる力を養い、様々な要求を満たしながら快適で調和のとれたインテリアデザインとは何かを深く追求し、感性に訴えるかける説得力のある作品作りを目指す。 またすでに学んだプレゼンテーションスキルを活用してコンペに応募し、実践力、応用力を身につける。	2 後	68				○		○				○	○
54			○	ショッププロデュース演習Ⅰ(ショップデザインコース)	自分がデザインしようとしているものに求められる一般的な機能や計画、イメージの作り方などを内装リノベーション、ディスプレイを通して習得する。 また、過去の卒制作品の研究や、現代社会におけるデザインを取り巻く事情を分析する時間を設け、自分のテーマを絞り込ませる。 以上のウォーミングアップを経て、後期にはオリジナルデザインを構築し具現化できる力を養う。	2 前	72				○		○				○	○
55			○	ショッププロデュース演習Ⅱ(ショップデザインコース)	住まいのあり方について、住まい手の個性やライフスタイルをインテリアデザインに反映させた提案ができる力を養い、様々な要求を満たしながら快適で調和のとれたインテリアデザインとは何かを深く追求し、感性に訴えるかける説得力のある作品作りを目指す。 またすでに学んだプレゼンテーションスキルを活用してコンペに応募し、実践力、応用力を身につける。	2 後	68				○		○				○	○
56			○	商品プロデュース演習Ⅰ(家具・照明デザインコース)	自分がデザインしようとしているものに求められる一般的な機能や計画、イメージの作り方などを内装リノベーション、ディスプレイを通して習得する。 また、過去の卒制作品の研究や、現代社会におけるデザインを取り巻く事情を分析する時間を設け、自分のテーマを絞り込ませる。 以上のウォーミングアップを経て、後期にはオリジナルデザインを構築し具現化できる力を養う。	2 前	72				○		○				○	○
57			○	商品プロデュース演習Ⅱ(家具・照明デザインコース)	住まいのあり方について、住まい手の個性やライフスタイルをインテリアデザインに反映させた提案ができる力を養い、様々な要求を満たしながら快適で調和のとれたインテリアデザインとは何かを深く追求し、感性に訴えるかける説得力のある作品作りを目指す。 またすでに学んだプレゼンテーションスキルを活用してコンペに応募し、実践力、応用力を身につける。	2 後	68				○		○				○	○

58	○			アッセンブリーアワー	各科目の授業時間では実施困難なことを横断的・総合的に行い、学生一人一人の生きる力を養うこと。 ※具体例：①学則・全体カリキュラムの説明 ②単位習得の条件 ③学習の手引き ④資格ガイダンス ⑤進路指導 ⑥学校行事とその準備 ⑦校外学習とその準備・予習復習(見学・実習)	1 通	70				○	○	○				
59	○			アッセンブリーアワー	学校行事やクラス運営に関する事項の伝達ほか、学生が充実した学生生活をおくれるようにする。 また、学生の進路の自己実現に向けての自主性を育成するとともに、組織的、継続的な調査や各種小テストなどを活かして、学生一人一人の進路の自己実現が図れるように指導する。	2 通	70				○	○	○				
合計							59科目	2,520単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
履修すべき全科目に合格、卒業課題の提出・合格、履修期間の出席率が80%以上、所定の費用を全納している	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	17.5週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。